

広げよう 2000万署名

私もサイン

来年4月末までに2000万人を目標に取り組まれている「戦争法の廃止を求める統一署名」に、サインした識者の思いを統報します。

戦争の芽をつんでいく

方言指導者

大原 稜子^{しょうこ}さん



私たちが子どもや孫に戦時中の恐ろしい思いをさせたくありません。そういう芽は私たちがつんでいかないと。

戦争しちゃいけない。もっともってがんばって、署名を成功させた。戦争が頭の隅にでもあるような人は、政治の舞台から外していかないといいません。私は戦時中、大阪の今里から広島島の瀬戸内海にある田島に疎開しました。小学校は国民学校に改変されて、天皇制軍国主義の教育を受けさせられました。間近で原爆が投下され、同級生の被爆した姿も目にしました。敗戦後は新制中学で『あたらしい憲法のはなし』を学び、中国から引き揚げてきた先生が「戦争はだめだ」と教えてくれました。今の私を方向付けてくれています。

元宮城県町村会長(旧鹿島台町長)

鹿野 文永^{ふみなが}さん



「負ける気しない」形に

旧鹿島台町の人口は約1万4000人と、日本人口のおよそ1万分の1でした。なので、鹿島台9条の会ではまず2000人の署名を集めようと位置付けて、160人の会員が署名の呼びかけに取り組んでいます。2000万人というのは、先の総選挙で自

民党に投票した人の数に匹敵する数です。翻訳家の池田香代子さんが、戦争法廃止のたたかいについて「負ける気がしないんです」とおっしゃっていました。が、同じ気持ちです。「負ける気しない」という思いを、署名を通じてより多くの人と共有して、2000万人という数で形にした



国際基督教大学特任教授
立憲デモクラシーの会呼びかけ人

千葉 眞^{まこと}さん

安倍政権は、選挙で得た議会で多数をもって、民意を顧みないやりた放題の政治を行っています。こうした議会政治に対し、平和や人権を守る市民運動が疑問を投げかけ、新しい政治参加の形態を主張していく「参加デモクラシー」の活性化が重要で、2千万署名の運動の意義は大変

安保法の危険 向き合い

大きいと思います。大学のゼミでは、主体的に署名集めに取り組み学生がいます。彼らは、今の日本が大きな転換期にあり、自らの問題として考えようと行動しています。署名活動を通じて多くの人たちに安保法(戦争法)の危険性に向き合ってもらうことが必要です。参院選で安保法反対の野党が多数派となれば、それを弾劾させない第一歩になります。次の課題は、衆院選で安倍政権に終止符を打つことです。